

管路AM進展へ知見共有

管診協 技術ショーケース開催

管路診断コンサルタント協会(山崎義広会長)は6月30日、都内で技術ショーケースを開催。国、自治体、管診協による「下水道管路の資産維持に資する取組み」をテーマにした施策動向や事例などの講演が行われたほか、各団体のブースが設置されるなど、技術ショーケース本来の「見て・聞いて・触れる」場の提供というコンセプト通りでのフル開催に、ウェブ参加合わせ約360人が参加するなど、コロナ禍前を上回る盛況ぶりとなった。

28日には富山会場で

冒頭あいさつで山崎会長は新中期ビジョン2020で掲げる「異業種・産学との連携」を踏まえ、異業種との交流を深めることでの技術研さん、情報発信を通して「管路ア

セットマネジメントに貢献していきたい」と今後第一歩では、国土交通省下水道部下水道事業課事業マネジメント推進室の川島弘靖課長補佐が



管診鏡の点検デモ披露



蓋老朽化の現状を強調

「下水道事業の最近の動向」、葉山町環境部下水道課の秋本圭介主任が「アセットマネジメントの取組み」、管診協技術委員会の山下徹技術副委員長が「下水道管路の診断・評価における管診協の取組み」を講演した。

川島課長補佐は今年度予算における新規創設事業やストックマネジメント導入に向けた支援制度について紹介。最近の話題としてウォーターPPPの概要などを解説。

秋本主任は、葉山町下水道事業における経営改善の重要施策に▽経費回収率の向上▽事務の効率化と包括的民間委託の活用▽官民連携の活用――の3項目を挙げた。中でも経費回収率の向上については、今後下水道使用料を二度改定するなど回収率上昇を図る。このほかコンセッション事業等の案件形成に関する方策検討などを紹介した。

山下副委員長はアセツ

トマネジメントの推進に向けた各種調査研究やマニュアル類の整備状況について共有した。現在、日本下水道新技術機構らと取り組んでいる「管きよの長寿命化に資する診断等に関する共同研究」では、管路改築で主流のスパン更生に代わる経済的な手法として部分改築工法の活用方法を模索していると紹介した。

第二部では日本シッコ防食・更生工法のご紹介、日本グラウンドマンホール工業会が「マンホール蓋のアセツトマネジメントに向けた取組み」、管路診断コンサルタント協会が「管診鏡の活用例」の出展内容を説明。その後、各ブースで参加者が「見る・聞く・触る」を通して各団体の技術への知見を深めた。なお、今月28日には富山市内(富山会場)で開催される。